

**製品名: CDC2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80840**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDC2
別名	CDC2; CDC28A; P34CDC2; MGC111195; DKFZp686L20222; CDK1
遺伝子 ID	983.0
SwissProt ID	P06493
免疫原	大腸菌で発現した CDC2 の精製された組み換え断片。

**背景**

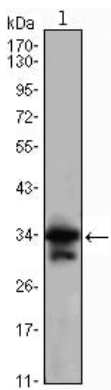
細胞分裂制御タンパク質 cdc2 は、サイクリン依存性キナーゼ 1 (Cdk1) または p34/cdk1 としても知られ、真核生物の細胞周期の制御において重要な役割を果たし、S 期および有糸分裂への移行に必須です。Cdc2 はサイクリン A およびサイクリン B の両方と複合体

として存在します。これらの複合体の中で最もよく特徴付けられているのは、G2期からM期への移行に必須のCdc2 p34サイクリンB複合体です。Cdc2の活性化は、サイクリン結合やスレオニン 161のリン酸化など、いくつかの段階で制御されます。しかし、有糸分裂への移行中にcdc2を活性化する上で最も重要な調節段階は、Tyr15およびTyr14の脱リン酸化であると考えられます。Tyr15のリン酸化とCdc2の阻害はWEE1およびMIKプロテインキナーゼによって行われ、Tyr15の脱リン酸化とCdc2の活性化はcdc25ホスファターゼによって行われます。アイソフォームCDC2deltaTは乳がん組織に認められます。さらに、cdc2/Cdk1は脳の発達と変性における神経細胞死の重要なメディエーターです。

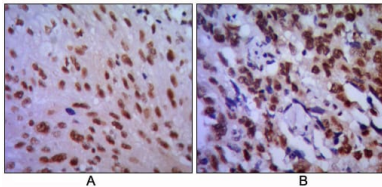
## 研究分野

アポトーシス

## 画像データ



Jurkat (1) 細胞溶解物に対するCDC2 マウス mAb を用いたウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト肺がん (A) および食道がん (B) の免疫組織化学分析。DAB 染色による CDC2 マウス mAb を使用して細胞質の局在を示しています。